

## ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

今年の春は、思わぬ事態となりました。新しいウィルスによるインフルエンザの流行で、皆さんも数々の影響を受けていると思います。早く終息して、通常の生活に戻ることを願っています。

さて、NOI 岡山も予定していた自然観察会を延期しました。自然観察会の様子をお知らせすることができなくなりましたが、1月下旬に大阪で開催された日本自然保護協会の全国大会に参加した、当会の会員が報告文を寄せてくれたので、予定通り機関誌を発行し、今後の日程を含めてお知らせします。

4月には恒例となった毛無山での自然観察会、6月には年次総会や自然観察会などを予定しています。これからも会員の皆様と一緒に、自然観察を通じて自然の不思議さを実感しながら充実した楽しい時間を過ごしたいと思っています。

## 第14回自然観察会 早春の毛無山の動植物（第3回）（締切4月20日）

- 開催日：2020年4月26日（日）
  - テーマ：早春の毛無山の動植物
  - 集合 午前10時 田浪キャンプ場駐車場
  - 行程 毛無山登山道を3合目までを往復
  - 持ち物 飲み物、双眼鏡、筆記用具、雨具
  - 申込 西本 ([taknishi@js4.so-net.ne.jp](mailto:taknishi@js4.so-net.ne.jp))
  - 見所 早春の明るい森林内を彩る花々や、野鳥や
- △ササビなどの動物も観察します。
  - 昼食 さくら茶屋（1500円程度の実費）
  - 解散 14時
  - その他
    - ・新庄村森林セラピー協議会との共催です。
    - ・会員の皆さまも知人に呼びかけるなど、紹介してください。

## 2020年年次総会と第15・16回自然観察会のお知らせ

- 開催日：2020年6月14日（日）
- 開催場所：岡山市西大寺公民館（午前）  
和気閑谷と和意谷（午後）
- 集合：9時 岡山市西大寺公民館
- 観察会：一般公募の観察会（第15回）  
9時30分～10時30分  
「ジャコウアゲハの幼虫はなんでこんな姿」  
～幼虫を写生して、話し合い～
- 年次総会：10時30分～12時
- 昼食：12時～12時30分
- 第16回自然観察会（県内の生物多様性ホットスポットを訪ねてのシリーズNo.2）：  
12時30分～16時30分  
山田勝さんの案内で、モリアオガエルの生息地を巡り、産卵場所の特徴を観察する。併せて、タワヤモリも観察する。

## 県外研修2020（有志による活動）—五色ヶ原、乗鞍岳、上高地のお知らせ

- 開催日：2020年8月2日～5日（日～水）
- 場所：五色ヶ原：手つかずの自然が残された場所で自然観察のために整備された8時間コースを、ガイドと一緒に巡る。  
乗鞍岳：未明に出発し、山頂でご来光を見
- て、高山植物を観察する。  
上高地：梓川周辺の植生を観察する。
- 内容：自家用車に分乗して、自然保護と観光がマッチした場所を訪問し、秘湯にも宿泊する。
- 申込：西本まで。詳細をお知らせします。

## 中国地方5県交流会（担当は広島県）と第17回自然観察会のお知らせ

- 開催日：2020年10月3日～4日（土・日）
- 場所：北広島町八幡高原（広島県）
- 内容：西中国山地での生物多様性保全活動の取り組みを視察する。
- 宿泊：安芸太田町の深入山いこいの村
- 申込：西本まで（締切8月25日）

## 第18回自然観察会のお知らせ（開催予定を延期した日程）

- 開催日時：2021年3月14日（日）  
10時～14時
- 岡山県の生物多様性のホットスポットを訪ねて（No.3）石灰岩地の春植物—その1

- 参加者は西本まで改めて連絡してください。
- 内容：今年予定していた観察会を延期して、来年の同じ時期に実施します。先日、下見をしてきました。ユキワリイチゲ、セツブンソウ、アズマイチゲ

など石灰岩地特有の植物が群生する場所で、晴れると暖かさが感じられる曇りがちの日でしたが、数々の希少な花に出会うことができました。カタクリの群生地では、つぼみも見られました。

## Nacs-J 全国大会参加報告

佐々木清英

1月25日(土) 26日(日) 日本自然保護協会主催「自然体験活動のトランスフォーマティブチェンジ」に出席いたしましたのでご報告いたします。

日時：2020年1月25日 10:30~16:30  
26日 9:00~15:00

場所：大阪市立自然史博物館、長居ユースホステル

参加人数：約150名

【自然観察指導員養成計画 2030 概要】趣旨説明 高川氏

- ・指導員は3万人を超えた。
- ・2030年までに生物多様性の損失を止める。
- ・そのために自然保護の取り組み方を劇的に変化させていく。
- ・そのためのアクションプランを立て実施していく。
- ・追い風としては価値ある自然を守っていこうとするSDG'sの認知度向上がある。
- ・自然体験の入り口となりすべての人に自然の恵みを実感してもらう。
- ・今までになかった発想でパートナーシップアクションを取っていく、それがトランスフォーマティブの意味

【ビジョン実現の実施計画】

- ①興味・境遇に関係せず広く人を自然に誘う仕掛けづくり
- ②深く自然を養う仕掛けづくり
- ③自然観察指導員のフォローアップ
- ④新指導員の養成

【コンセプト】自然観察指導員の本来の価値を改めて発揮する11年

【2030年度末までの目標】

- ①自然観察や自然とのふれあいを主目的にしない参加者が自然の魅力に気づくしかけが社会で広く2パターン以上実施されている。
- ②多様な個性・境遇・障害を持つ方を含め、誰もが惹きつけられるような魅力的な場所が順調に増えている。
- ③指導員全員が持ちたい意識・知識・技術を習得できる講習会・研修会を体系的に実施している。
- ④自然を守りたくなる価値提示ができる人材として自然観察指導員が社会の2割の人に認識されている。

【シンポジウム】(トピックス&キーワード) 佐野氏

子供の自然体験の減少 = 自然体験をしたことのない親を持つ子供たち

昔 = 親から子へ 今後 = 社会から子へ

フィールドビンゴ(自然に存在するものを9マスの絵にして探しながらビンゴゲームをする)

自然は誰もが笑顔になれる場所

だれひとり取り残さない

